

第3回二宮町町民活動推進委員会 議事録

日 時：令和2年10月26日（月） 18：30～20：00

場 所：二宮町役場 第1会議室

出席者：手塚委員長、男成委員、岡本委員、伊達委員、志賀委員

【オンライン】小林委員、豊田委員、山岡委員

欠席者：大河原副委員長

事務局：地域政策課2名

傍聴者：1名

1. 開 会

2. あいさつ

（委員長）だいぶ世の中も落ち着いてきたのかと思うが、外に出での活動となると、まだまだ支障がありそうである。今後、私どもの活動が変わっていくのか、着目していきたいと思う。

本日は議題が多いので、皆さまのご協力をお願いしたい。

3. 議題

（1）令和3年度町民活動推進補助金募集のお知らせについて（案）

— 事務局説明 —

（委 員）内容は昨年度と同じか。

（事務局）日程以外の変更はない。16 ページ、補助金の計画書について、ひとつ項目を設けてはどうかという意見が委員よりあった。発案委員より詳細の説明をお願いしたい。

（委 員）2015年、国連が発表した17の目標と169のターゲットから成る「SDGs（持続可能な開発目標）」が日本でも推進がされている。企業は勿論、自治体も内閣府主導での推進がされている。二宮町ではホームページに掲載されている。「二宮町総合計画に位置付けて推進していく」と書かれているが、まだまだ足りないところが多く、町民への周知もできていない。この町民活動推進補助金は、各団

体がやりたいと思っていることとSDGsが、ほぼ繋がっていく。例えば、スポーツを通じた健康増進、子ども達への教育、子ども食堂などはまさに、SDGsの目標に当てはまる。今回の提案としては、補助金計画書の最後に、17の目標のどれに自分たちの活動が当てはまるかを書く項目を新設するという。それによって申請する団体をはじめ、町民の意識も変わってくると思う。

(委員長) 浸透させていくという国の方針があり、二宮町でも施策を考えている中で町民活動がパイオニアになるのは重要な動きだと思う。

(委員) 具体的に書式がどう変わるのだろうか。

— 発案委員が17の目標とロゴの一覧を提出する —

(委員) 例えば、3番の「すべての人に健康と福祉を」であれば、スポーツを振興する団体はこれに当てはまる。4番の「質の高い教育をみんなに」であれば、子どもに対する教育振興をする団体は、これに当てはまる。17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」というのは、二宮町と団体との連携だけでなく、団体同士の連携など横に繋がる活動が該当する。

(委員) 町民のみなさんにも広く知ってもらうために役立つと思う。

(委員) 認知が広がることに貢献できて良いと思うが、計画書に基づいて審査するうえで、「このSDGsの項目にたくさん当てはまる方が優位である」という誤解が生まれないように注意が必要である。

(委員) 審査基準にSDGsを関連させる考えはない。多くの目標を設定することが採点を左右するものではない。

(委員) 町も総合計画の中でSDGsを位置付けて「見える化」を推進している。様々な町民活動があるが、必ずどこかの目標に当てはまる。SDGsを意識付けしていくことで、気付きにも繋がるので、是非、取り入れたいと思う。

(委員長) 意識をするというのは重要であるが、先ほど他の委員が言っていたように、たくさん目標があれば良い事業というわけではない。事務局も団体側に伝える際には注意していただきたい。本件については意見を取り入れて、進めていくということによろしいか。

(全委員) 意見なし

(委員長) 別件でひとつ気になるところがある。団体の継続性・自立性について、今回のスタート支援の計画書にも丁寧に書かれているが、これは基本的にスタート支援の審査項目ではない。なので、ここを明記させることで逆に団体を委縮させかねない。もっと気軽に応募してもらいたい。今後、スタート支援に限ってはこの項目を無くしてほしい。せめて「今後の団体の継続活動に向けた思い」としていただきたい。

(委員) 継続を求めているのであれば削除して良いと思う。審査する側もやりやすい。

(委員) この様式を定めているのは条例または規則どちらか。

(事務局) 要綱である。庁内の決裁が必要になる。

(委員長) では、事務局案を作成していただき、委員の中で書面決議をとった後に庁内決裁をするという流れになるがよろしいか。

(全委員) 意見なし

(2) 町民活動推進補助金交付団体现場確認について

人生わくわく船(ステップアップ支援)の団体现場確認について、委員より報告

(委員) とても有意義な活動であった。他の団体も触発されて広まってほしい。

(委員) 避難所運営ゲームについてはもっと町内に広まってほしい。参加者もゲーム感覚で学ぶことができ、場合によっては学校教育に取り入れていただきたい。さらに、コロナ対策にもしっかり取り組んでいて、検温、消毒、休憩などを行っていた。団体から聞いたところ、今後は横の繋がりを作って他団体と連携したいということであった。

(委員) 既存の団体である「元気の出る歌のつどい」とコラボして展開しており、今後の広がり期待できる。課題は、今回、講義形式で身体の痛みを緩和するという内容であったが、自宅で実践することを継続してもらう工夫が必要であると感じた。

(3) 令和3年度町民活動フェスについて

— 事務局説明 —

(委員長) 今年はコロナウイルスの感染対策としてフェスを中止にした。今の事務局の報告は昨年度のものである。令和3年度の予定としては5月に開催予定である。どのような内容にするか、各委員より意見があれば伺いたい。

(委員) 前回は何処でどのような形で行われたのか。

(委員長) 町民センターにおいて、補助金交付団体の報告会と、その後にワークショップを実施した。

(委員) 例えば、ラディアン展示ルームでポスターセッションはどうか。人を集めて団体のPRをするというのは大事であるが、この状況では難しいと思われる。

(委員) 前年度のフェスに参加したが、「団体が一番悩んでいるのは何か」という報告があっても良いと思った。失敗例・成功例の発表の場としても良いと思った。

(委員) 今回話題になったSDGsのワークショップをゲーム形式で実施してはどうか。制度の周知にも繋がって良いと思う。また、フェスに来たくても来られない人も多くいると思うので、Webでライブ中継するのも参加者を増やすことになるかと思う。

(委員) オンラインで実施するということが前提になると思う。コロナ禍で多くの団体が活動に制約を受けているはず。その中でみなさん工夫をして乗り越えてきている。そういったノウハウを共有する場になると良い。

(委員) 団体と委員の間だけの報告会では勿体ない。町民活動に興味がある人、関心がない人など、誰を対象にどのような内容にすべきかを考えていきたい。

(委員) 先ほど意見が出たパネル(ポスター)が良いと思う。フェスに集まって、そこから活動の場を広げてもらうのがベストであるが、その前段の「町民活動へ参加していただける町民の方々」が限られていることが課題と考える。例えば、町民活動団体へはパネルの作成というのを最終的な成果物として依頼して、サポートセ

ンターに展示すればいつでも見られ、参加意欲の繋がりになると思われる。「動画の紹介」というのも今後の手法としてあって良いのかとも思う。

(委員長) まず対象は誰なのか、何を受け取ってほしいのか、というものを委員会の中で確認する必要がある。補助金の報告会があるというのは揺るがないので、そこはしっかりと実施する。今いろいろと頂いた意見の中で、ポスターセッションにするか、オンラインで報告をするか、特設のホームページを作成し、そこに団体の動画や写真のスライドショーによる紹介を掲載するか。企画書として目的や対象などを絞ったものを作成し、委員の中で協議した上で具体的な手法を決めていきたいと思う。子ども向けのSDGsワークショップなどもあるので、動画で発信するのも良いし、リアルタイムのオンラインで多くの人に参加するのもひとつ。近隣の自治体もいろいろな手法を使っている。

今の時点では企画段階なので、他に決めることがなければ今回はこれでよろしいか。

(意見なし)

(4) 令和2年度町民活動推進補助金スタート支援 第1次審査(書類審査)
(町民活動参加条例第10条により審査は非公開のため、傍聴者退室)

— 「にのみや子どもの島」のスタート支援応募の企画内容を事務局説明 —

(事務局) 各委員から質問をいただいている。

質問①: 未就学児や中学生へのカテゴリーも対象に入れることも考えているか。

回答: さまざまな切り口を提供できるプラットフォームになればと考えている。

質問②: 成果物の発信が重要だと考えているが、成果物の発信についてどう考えているか。

回答: 活動紹介はもちろん、アート作品ならば展示、劇場公開も考えられる。

質問③: 2年目以降の収入計画はどう考えているか。

回答: 基金の活用や寄付など多様な選択肢があると考えている。

質問④: 分野項目で環境保全に丸があるが、どのような活動がそれに該当するか。

回答: アートは人と自然の共鳴だと考えている。また森の音楽ワークショップというプログラムを検討中。

質問⑤: 主な活動場所の項目で吾妻山谷戸棚田ととあるが、どのようなイベントなのか。

回 答：資料には書いていないが、谷戸棚田は「農ある暮らしを広める会」という団体が活動している場所で、そこを利用して様々な事業に取り組んでいきたいとのこと。

前回の委員会で子ども食堂便のお弁当の配達が生産総数ではなく、何世帯にアクセスできたかが重要ではないかとの意見があったが、配達した世帯数は全部で56世帯であるとのこと。

(委員長) みなさんそれぞれご質問いただいて、答えが出ましたが、追加の質問などはよいか。

(委 員) ①②③の質問をした。①②についてはある程度理解した。③に関して、今回はスタート支援への応募なので強く注目する必要はないが、アドバイスとして、このままで、基金や企業の寄付のみの計画では次年以降の継続が難しいのではないか。価値があるものなら受益者負担でも払うと思うし、子ども教室だけでなく、他の方法も視野に入れておいたほうがいいのではないか。

(委員長) ステップアップ支援に応募するのであれば、今後のこの部分は話し合ったほうがいいのではないか。子ども夢基金をターゲットにしているのは、いいと思う。補助金の手引きについてであるが、人件費の項目でスタート支援とステップアップ支援は書き方が異なっており、わかりにくい。

(委 員) ここは整理しなければならない。

(5) その他

次回開催日 町民活動推進補助金プレゼンテーション
令和3年3月20日(土) 14:00から

4. 閉 会

(委 員) 11月29日の農ある暮らしを広める会の活動現場確認は予定どおりか。

(事務局) 予定どおりで、改めて集合場所などは事務局から連絡する。